

簿記の教室メイプル Twitter 校

2020 年秋合宿企画

第 2 回 簿記 2 級計算問題大会

注意事項

- ・ 簿記 2 級計算大会の参加の対象となる方は、次の日商簿記検定試験で 2 級を受験される予定の方です。
- ・ 問題は計 10 問（基礎編 5 問、応用編 5 問）で、すべて商業簿記の問題です。制限時間は 50 分です。
- ・ 事前に本問題用紙、および別途答案用紙を印刷いただきますよう、お願いいたします。この表紙の印刷は不要です。また、2 ページにまたがる問題はありませんので、両面印刷でも結構です。問題文は、この表紙を含めず 8 枚、答案用紙は 2 枚です。また、あわせて下書き用紙（何でも結構です。）もご用意ください。
- ・ 計算大会に参加される方は、なるべく問題を見ないようにお願いいたします。
- ・ 問題は、どこから解いても構いません。
- ・ 商品売買に関する問題については、特に指示のない限りは 3 分法で解答してください。
- ・ 仕訳の解答にあたっては、単位（円）、（千円）の記載は不要です。また、千円単位の問題については、解答の際に円単位に直す必要はありません。また、模範解答においても単位の記載は省略しておりますので、ご了承ください。
- ・ 全て解いていただいた後に、答え合わせをします。問題によっては解説を載せておりますが、時間の都合上、詳しい解説は省略します。のちほど、各自でご一読いただき、復習などをしていただければと思います。勿論、今回の問題についてのご質問も歓迎します。
- ・ 各問に配点があり、全部で 100 点満点です。点数は全然気にしていただく必要はないですが、参考としてご活用ください。

それでは、始めていきましょう。

第1問 基礎編①（問題）

次の〔取引〕を仕訳しなさい。

〔取引〕

- ① 当社は、当期の6月1日にメイプル株式会社発行の株式、5,000株を1株あたり500円で購入し、購入代金は買付手数料1,000円とともに当座預金口座より支払った。
当社は、メイプル株式会社の株式をその他有価証券に分類した。
- ② 本日、決算日である。メイプル株式会社の株価は590円であった。①の取引以降、メイプル株式会社の株式の売買は行われていないものとして、全部純資産直入法により時価評価の仕訳を行いなさい。
なお、時価評価にあたり税効果会計を適用する。実効税率は30%とする。

〔使用可能勘定科目〕

当座預金、その他有価証券、繰延税金資産、繰延税金負債、
その他有価証券評価差額金、法人税等調整額

第2問 基礎編②（問題）

次の〔取引〕を仕訳しなさい。

〔取引〕

- ① 商品3,500ドルを仕入れる契約を締結し、内金として1,000ドルを小切手を振り出して支払った。なお、内金支払時の為替相場は1ドル106円である。
- ② ①の商品3,500ドルを仕入れ、代金のうち1,000ドルは前払金を充当し、残額の2,500ドルは掛とした。なお、仕入時の為替相場は1ドル107円である。
- ③ 決算に当たり、②の買掛金の換算替えを行う。なお、決算時の為替相場は1ドル106円である。

〔使用可能勘定科目〕

当座預金、前払金、買掛金、仕入、為替差損益

第3問 基礎編③（問題）

次の〔取引〕を仕訳しなさい。

〔取引〕

メイプル株式会社は、建設中であった支店の事務所が完成したため、事務所の引き渡しを受け、工事代金の残額 10,000,000 円の中の 4,000,000 円と、登記料 150,000 円については小切手を振り出して支払い、残額は翌月に支払うこととした。

なお、この事務所の工事に対しては、工事代金の一部として既に 20,000,000 円を前払いしている。

〔使用可能勘定科目〕

当座預金、建物、建設仮勘定、買掛金、未払金、支払手数料、租税公課

第4問 基礎編④（問題）

次の〔資料〕に基づき、問いに答えなさい。

〔資料〕

(1) 支店の当期純利益 1,350,000 円

(2) 本店の当期純利益 3,500,000 円

(※) (1)、(2)以外の事項については考慮する必要はない。

問い

本店、支店の損益勘定を締切り、総合損益勘定を作成するために必要となる①～④の仕訳を行いなさい。

- ① 支店の当期純利益について、支店が行う仕訳
- ② 支店の当期純利益について、本店が行う仕訳
- ③ 本店の当期純利益について、本店が行う仕訳
- ④ 総合損益勘定の締切仕訳

〔使用可能勘定科目〕

本店、支店、繰越利益剰余金、損益、総合損益

第5問 基礎編⑤（問題）

当社（P社）は以前よりS社を連結子会社としている。
次の〔資料〕に基づき、当期の連結財務諸表作成のために必要となる連結修正仕訳を示しなさい。

〔資料〕

- ① P社はS社に商品を販売している。当期のP社のS社に対する売上高は100,000千円であり、S社のP社からの商品仕入高も100,000千円となっている。
- ② P社のS社に対する商品の販売は、每期売上利益率を10%として行っている。当期首にS社が所有する商品のうち、10,000千円はP社から仕入れたものである。
- ③ 当期末にS社が所有する商品のうち、12,000千円はP社から仕入れたものである。

〔使用可能勘定科目〕

各自推定

第6問 応用編①（問題）

次の〔資料〕に基づき、問いに答えなさい。

なお、当社は3月決算法人である。

〔資料〕

(1) 当社の決算整理前残高試算表の一部は次の通りである。

決算整理前残高試算表（一部）			（単位：千円）	
建	物	1,000,000	建物減価償却累計額	455,000
	：		仮受金	50,000

- (2) 当期の9月18日に、建物（取得原価600,000千円、期首減価償却累計額405,000千円）を売却し、売却金額は当座預金口座に振り込まれたが、これを仮受金勘定で処理しているのみである。本取引につき、決算にあたり必要な修正を行う。なお、売却した建物の減価償却は、耐用年数40年、残存価額10%の定額法により行っている。
- (3) 残りの建物（取得原価400,000千円分）につき、減価償却を行う。なお、減価償却は耐用年数40年、残存価額ゼロの定額法により行っている。

問い

- ① 〔資料〕(2)の仕訳を行いなさい。
- ② 〔資料〕(3)の仕訳を行いなさい。
- ③ 決算整理後の減価償却費勘定、および建物減価償却累計額勘定の残高を答えなさい。

〔使用可能勘定科目〕

当座預金、建物、建物減価償却累計額、仮受金、減価償却費
固定資産売却益、固定資産売却損

第7問 応用編②（問題）

次の〔資料〕に基づき問いに答えなさい。

〔資料〕

- (1) 当社の決算整理前残高試算表の一部は次の通りである。

決算整理前残高試算表（一部）（単位：円）

⋮		⋮	
仮払金	356,800	未払消費税	356,800
仮払消費税	2,433,700	仮受消費税	2,899,100

- (2) 前期の消費税確定申告により確定した税額を納付した際、当社では便宜的に仮払金勘定で仕訳を行っていたため、決算にあたり必要な修正を行う。
- (3) 決算日にあった下記の取引が未記帳であった。

商品を500,000円（税抜）で得意先に販売し、代金のうち150,000円は現金で受け取り、残額をクレジット払いの条件とした。信販会社へのクレジット手数料は、クレジット販売代金（税込売上高から現金受取額を引いた金額）の5%であり、売上計上の仕訳と同時に計上する。

消費税率は10%として計算すること。ただし、当社が販売する商品には消費税が課税されるが、クレジット手数料には消費税は課税されない。

問い

- ① 次の文章の「〇〇」に当てはまる用語を答えなさい。
「当社は、消費税の仕訳方法として、〇〇方式を採用している。」
- ② 〔資料〕(2)の仕訳を行いなさい。
- ③ 〔資料〕(3)の仕訳を行いなさい。
- ④ 消費税の確定納付税額算定のための仕訳（決算整理仕訳）を行いなさい。
- ⑤ 消費税の仕訳方法として、当社が採用していない、もう一方の仕訳方法を採用したとしても消費税の納付税額は同じ金額となる。このとき、納付すべき税額は何という勘定科目で処理されるか。勘定科目名を答えなさい。

〔使用可能勘定科目〕

現金、当座預金、クレジット売掛金、仮払金、
仮払消費税、仮受消費税、未払消費税、売上、支払手数料

第8問 応用編③（問題）

次の〔資料〕に基づき、①～③の仕訳を行いなさい。

〔資料〕

当社が、決算にあたり作成した決算整理前残高試算表は次の通りである。

決算整理前残高試算表（一部）（単位：円）

電子記録債権	6,600,000	貸倒引当金	185,000
売掛金	8,400,000	：	：
：	：	：	：
貸倒損失	300,000	：	：

- ① 当期中に、前期以前に発生した売掛金 300,000 円が貸倒れとなった際、次の仕訳を行っている。
（借方） 貸倒損失 300,000 （貸方） 売掛金 300,000
上記仕訳には誤りがあるため、必要な修正仕訳を行う。
- ② 当期末において、当社の当座預金勘定残高と銀行から受け取った残高証明書の残高との不一致の原因を調査したところ、得意先からの売掛金の支払いとして当座預金口座に 1,000,000 円が振り込まれていたが、決算日までに通知が届いていなかったため、未記帳であったことが判明した。
- ③ 売上債権の期末残高に対して、1.5%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。

〔使用可能勘定科目〕

当座預金、電子記録債権、売掛金、貸倒引当金、貸倒損失、貸倒引当金繰入、

第9問 応用編④（問題）

次の〔資料〕は、メイプル株式会社において当期中に発生した商品売買取引を、3分法、分記法のそれぞれで仕訳したものである。これに基づき、次の問に答えなさい。

問1 ①～③に当てはまる勘定科目、又は金額を答えなさい。

問2 当期の売上総利益の金額はいくらになるか。

3分法により記帳した場合と、分記法で記帳した場合のそれぞれの金額を答えなさい。

〔資料〕

～ 3分法 ～						(単位：千円)
期中仕訳						
4/15	(借方)	仕入	40,000	(貸方)	買掛金	40,000
7/19	(借方)	売掛金	85,000	(貸方)	売上	85,000
9/25	(借方)	仕入	55,000	(貸方)	当座預金	30,000
					買掛金	25,000
10/2	(借方)	買掛金	200	(貸方)	仕入	200
2/10	(借方)	現金	22,500	(貸方)	売上	(①)
		受取手形	38,000			

決算整理仕訳						
3/31	(借方)	仕入	38,300	(貸方)	繰越商品	38,300
	(借方)	繰越商品	(②)	(貸方)	仕入	()

～ 分記法 ～						(単位：千円)
期中仕訳						
4/15	(借方)	商品	40,000	(貸方)	買掛金	40,000
7/19	(借方)	売掛金	()	(貸方)	商品	61,000
					(③)	()
9/25	(借方)	()	()	(貸方)	()	()
					()	()
10/2	(借方)	()	()	(貸方)	商品	200
2/10	(借方)	()	()	(貸方)	商品	42,300
		()	()		()	()

決算整理仕訳						
3/31	(借方)	仕訳なし		(貸方)		

第10問 応用編⑤（問題）

次の〔資料〕に基づき、以下の①、②の問いに答えなさい。

なお、〔資料〕に記載のある事項以外については一切考慮する必要はない。

- ① 当期の貸倒引当金繰入の金額はいくらになるか。なお、当社は毎期、期末売掛金残高の2%に相当する金額を貸倒引当金として設定している。
- ② 当期の純売上高（損益計算書に計上される売上高）はいくらになるか。

〔資料〕

- 1 各勘定の前期末及び当期末の残高は次の通りである。（「？」は各自で推定すること。）

	前期末	当期末
売掛金	6,000	5,500
前受金	1,000	2,000
貸倒引当金	120	？

- 2 当期の期中取引の内、本間に関係する取引は次の通りである。

- (1) 現金、または預金による売上高は8,200である。
- (2) 販売した商品のうち、500が返品され、売掛金を減額した。
- (3) 得意先より商品代金の内金12,000を受け取った。
- (4) 売掛金の現金、または預金による回収額は102,500である。
- (5) 前期以前に発生した売掛金のうち、100が貸倒れとなった。

(注) 〔資料〕の表、文章中の金額の単位は全て「千円」であるが、単位の記載をすべて省略している。